

鉄骨工事 Q&A	溶融亜鉛めっき	めっき抜き孔の形状	制定	2016年7月1日
			改訂	2019年4月1日

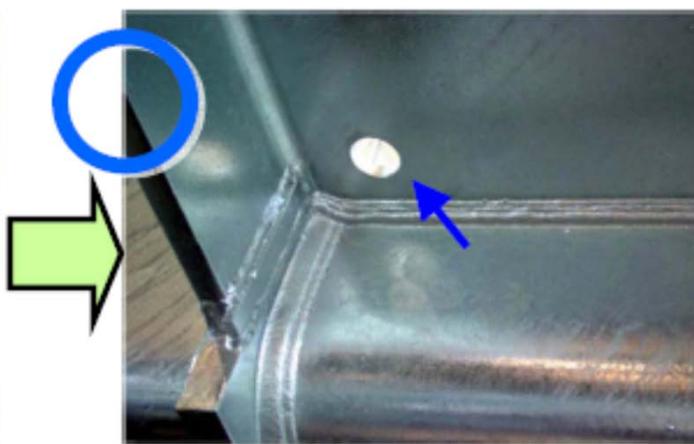
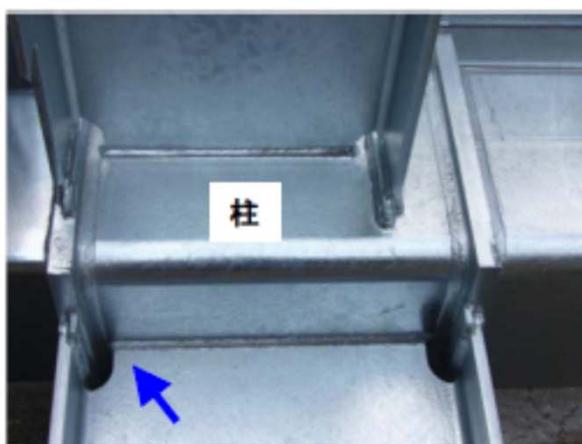
Q. めっき構造物のめっき抜き孔※は、どのような形状が良いか？

A.

鉄骨工事技術指針・工場製作編では、リブ・スチフナなどに設けるめっき抜き孔として、円形孔が規定されています。大梁に取付く小梁のガセットプレートやリブプレートのようにH形鋼の両面に連続して溶接される部材では、写真のようにめっき溜まりやたれが生じやすくなるため、スカラップ形状が望ましいと思われれます。ただし、大梁などでフランジ板厚が厚く、ガセットプレートやリブプレートなど板厚が薄い場合は、板厚差によるめっき割れが発生する可能性があります。その対策として、ガセットプレートやリブプレートなど板厚を厚くすることが望まれます。(本Q&A A-7-20 参照)



ただし、柱梁接合部のような地震時に大きな荷重を受ける部位は、載荷試験の結果からスカラップ形状ではなく、ノンスカラップ形状で円形孔にします。



※ めっき抜き孔：溶融亜鉛・空気流出入用の孔を指す